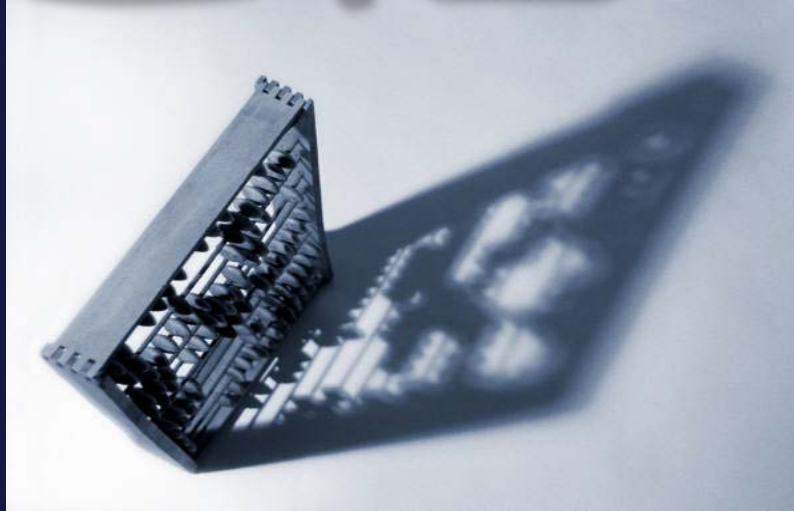


新と旧



www.columnland.net

時代のアルゴリズム

無限に発散する渾沌は

有限の秩序に収束し

巨大な複雑の実像は

微小な単純の虚像へ

0と1が支配する世界

いつか

すべてが0になる

時代

二十世紀初めの人々が、百年後を想像して描いた絵、というものを見たことがある。百年前といえ、イギリスに始まる産業革命によって蒸気機関が台頭し、写真、映画、鉄道、電球などが発明された時代である。

その絵の中には、まず、個人用飛行機というものが想像されていた。ライト兄弟が飛行機の発明したのは一九〇三年、飛行船の発明がその前の一八五二年だから、人々はひとりで自由に大空を飛びたい、という人類永年の夢を実現できる日が近づいている、と感じたのだろう。そして、舞台などで演じられた演劇を、離れた所から見られる装置。これは現代のテレビに実現されている。ブラウン管テレビの発明は一九二六年。最初に画面に映った文字は「イ」であった。

まだまだたくさんあるのだが、その想像のほとんどが、百年の間に実現しているのだ。この科学技術のめざましい進歩によって、私たちの生活は維持されている。そして、今この時も、地球のどこかで、

新しい技術やモノが開発されている。

しかし、その裏では次第に、それまで栄えていたモノが廃れていった。馬車、人力車などは、主要の交通機関としての役目を終え、現在では観光用、行事用として専ら活躍している。また、液晶・プラズマテレビの台頭によって不要になったブラウン管テレビは、海を渡り、フィリピンで第二の人生を歩んでいる。

そんな状況でも私達は、今まで使ってきたモノをあつさりで見捨てて、我先にと新しいモノに飛びつく。「新しい」モノが生まれれば、またそれに飛びつき、「古い」モノを捨てる。「古い」モノには無関心になってしまうようだ。

実際は、新しくできたモノというのは、元からあったモノを、発想と努力によって変化させてできたモノなのだ、と私は思う。元があったからこそ新しいモノが誕生した、だからどちらも大事にしなければならぬと思うのだ。

孔子の言葉にあるように、「故きを温ねて新しきを知る」という精神が、私達科学技術の利用者にも必要なのではないだろうか。

こんにちは。新しい顔二五六号。

一〇〇メートル光から、ナイスビッチングで顔が飛ぶ。

これでたちまち勇氣一〇〇倍。元氣一〇〇倍。

お腹をすかせた子供たちが待っている。

得意のパンチでバイキン、汚物は消毒だ。

さようなら。欠けてカビた顔二五五号。

まだ食べられる部分もあるけど、僕は君を捨てていく。

苦しんでいる表情を保ちながら

今日も人知れず、きたない顔が転がる。

これが僕のエブリデイ。

外気に触れるだけで朽ちていく僕の顔は

どこかで転がり、思い出になり、歴史になる。

誰かに後ろ指を指されてもかまわない。

もつたないといわれてもかまわない。

常に僕はニューフェイス。古びた顔は汚物なのさ。

これで誰かのためになるのなら、喜んで僕は友を捨てる。かお

愛と 勇氣だけが 友達なのさ。

みんなのヒーロー アンパンマン

あるとき、僕は自分の中にふたりの自分がいることに気がついた。

常に新しいものを追いかけて、どんどん新しいことを吸収していこうとする自分がいた。彼はとても積極的であったが、旧い自分のことをひどく嫌っていた。いつも後ろ向きなもう一人の自分のことを蔑んでいた。

あるとき、彼は大きな失敗をした。新しいものを常に追い求めた結果、過去と同じ失敗を何度も繰り返して、周りの人の信用を失ってしまったのだ。

依然前を向きつつも、彼はその失敗の原因を必死になって探した。

一通り考えたあと、やはり何も思い浮かばなかった彼は、ふと後ろを振り向いた。

すると、珍しいことに旧い自分の顔が見えた。彼の顔には積年の経験に裏打ちされた自信があらわれ、その瞳は青く、何かを見通しているかのようにだった。

彼は気づいた。

常に過去に目を向け、過去にあつた経験を大切にしようとする旧い自分がいた。彼は慎重で時に優柔不断であつたが、新しさを求める自分のことをひどく嫌っていた。いつも未来を見据えている彼のことを無視し続けていた。

あるとき、彼は大きな岐路に立たされた。自分の全く知らない分野について研究をするよう、上司に言い渡されたのだ。

依然過去を見据えつつも、彼はこの指示に従うかどうか必死になって考えた。

一通り考えた末に、何も答えの出なかった彼は、ふと前を見るべく顔をあげてみた。

すると、不思議なことに新しい自分の顔が見えた。彼の顔には常に新しいことに挑戦してきたたくましさがあらわれ、その瞳は赤く、焰のようにきらきらと輝いていた。

彼は気づいた

「僕には彼が必要だったんだ。」

ふと気づくと、僕は自分の中に今までとは違う何かを感じていた。

旧傷

あの人に拒絶されたあの日から

存在する

曖昧な悲しみ

鈍い痛み

ゆるい苦しみ

旧い傷は癒えずに

私の心を 蝕み続ける

此の痛みを消すのに

人は 忘却の必要を唱える

されど

共に 微笑んだ

あの想い出の日々を

忘れるくらいならば

この傷と共に生きてゆきたい

それがあの人との唯一の繋がりだから

新旧ダイナミズム

最近、新しいものと古いものの両方に関する話題をよく耳にする。例えば、伝統文化財とのよりよい共存を目指す市町村の話や、昔の音源が現代の音となって生まれ変わるデジタルリマスターの流行などで、新旧の両方が活かされている。そんな中、急に私の頭に浮かんだのは、長野県にある姨捨山の言い伝えだ。

姨捨山とは「自身の母親を山に捨てた男が、夜空に浮かぶ名月を眺める内に、母を捨てたことに対して強い後悔の念を抱き、翌日に連れ帰った」という言い伝えに登場する山である。この話を聞いた時、私は両親をずっと大切にしていこうと強く思ったのだが、悲しいことに、現在の日本においては必ずしも全ての人がそう思うわけではないようだ。

日本が世界有数の高齢化国家であることはご存じの通りで、四十年後には六十五歳以上の高齢者が人口の半数を占めるという予測もあるくらいだ。そして、そんな今の日本では、高齢者の地位があまりにも軽くとらえられているように感じる。まず国の政策からは高齢者に対する思いやりが感じられないし、また、施設に両親を預けたままでもろくに顔も出さないというケースは少なくないという。明らかに、言い伝えに登場する男よ

りもひどいのである。高齢者は決して時代遅れのお荷物なんかではない。むしろ、私たちの社会を変える可能性をもっている。

「おばあちゃんの知恵袋」ということわざがあるように、高齢の方々は人生経験が豊富で、私達の知らないことをたくさん知っている。子育ての経験は子育てに悩む現代の母親達を助ける大きな力になるはずだ。また、社会人としての経験はこれから新たに社会人となる若者や現社会人の悩みを解決する手助けになるだろう。高齢者の結束が強い地域では、子供が犯罪に巻き込まれる件数が減るというデータもある。つまりは、高齢者をただ放っておくのは社会としても「もったいない」のだ。

冒頭の例のように、新しいものと古いものにはそれぞれいいところがあり、どちらがいいというわけではないと思う。新たに社会を担う若者達は、その溢れんばかりのエネルギーを生かしてがんばればいいし、一線から退いた老人達は、長い人生を歩んできたこそできることを自分のペースでやればいい。このような、新旧それぞれが内に秘めた力、ダイナミズムが輝く社会が私の理想だ。もちろん私は、「まだまだ若いもんには負けないよ」と言える、格好いいおじいちゃんになりたいと思う。

すべてはあの癖毛の男のせいだ。

かつて私は功績を称えられ、この上のない地位を与えられた。この地位にある以上、誰もが私の顔を知り、名前を知っていた。しかしその地位を、あの癖毛の男に奪われてしまったのだ。

そもそも、あの癖毛の男は科学者で、私は小説家だ。

研究の分野も違えば、成した業績の意味も違う。

本来比較することすらできないはずである。

それなのに世間は私を排除し、あの癖毛の男を評価した。

あの癖毛の男は研究のためだといって海外の未開の地を訪ね、そこで病にかかった愚か者だ。

だが世間は向こう見ずなあの癖毛の男を勇敢だと評し、英雄だと称える。それに対し私は陰湿で、頑固者で、エゴイストだと世間は言うのである。

私とあの癖毛の男の残したものに質的な差などあるはずもない。

要するに世間は私とあの癖毛の男を主観で区別しているに過ぎないのだ。

しかし、世間は私の主張など知らず、

あの癖毛の男を賞賛すると同時に私を過去のものとして捨て去ろうとしている。

こんな風に・・・

「コノ紙幣ハ読ミトレマセン。新千円札ヲゴ利用クダサイ。」

「旧」対「新」

ボクは部屋の片隅に置いてあるクマのぬいぐるみに襲われた。

二階で物音がする。誰かの足音？階段を下りてくる音。音は近づいてくる…。そしてその正体を確認した。ボクは目を疑った。その者はボクを冷たい目線で見つめていた…。

「ねえ、遊ぼうよ、遊ぼう…。」

泣きながら、テレビゲームをするボクに近寄ってくる。昔はクマちゃんがボクの一歩の友達で、つらいことも二人で乗り越えたけど、もうボクは小学生だよ。今の友達はゲームの最強ヒーロー・ニューマンだもんね。

無視していたら更に近寄ってきて、クマはゲーム機を踏みつぶそうとする。ボクは立ち上がった。こんなホコリかぶってて、耳が糸一本でかろうじてつながっているようなぬいぐるみにボクが負けるわけないだろ！クマを倒してやろうとしたが、クマは全く動じない。もうゲームが踏まれてしまう！

その時、あるうことが、ゲームの中からボクの味方をしてくれる者がいた。

必殺・マシンガンチップ！

ニューマン！助けてくれたんだね。しかし、クマはなぜか動じない。そしてクマはゲーム機を踏みつけた。**ボクは人生最大のショックを受けた。**

更にクマはボクに近づいてくる。そして、小さな口を破れんばかりに開けて、ボクにかみつこうとする…。**うわあ〜！**

朝の光がまぶしい。ボクは目を覚ました。ここは天国？地獄？頬を思いつきりひねった。いててて…。部屋の端にはクマがいる。やさしい顔でボクを見つめていた。ボロボロになったクマを見ると、クマにニューマンの技が効かなかった理由が分かった。まあ当たり前なんだけど、ゲーム依存症になりかけていたボクには分からなくなっていた…。そして、クマをそっと抱いて、小さな声で、ごめん、と言った。

それから長い年月がたって…。どんなに便利なものが出てきても…。**ボクはまだクマのぬいぐるみを捨てられない。**

旧内閣から新内閣へひとこと

基地はまかせた
危険

新型使用人口ロボットである僕がこの屋敷に買われてから、もう一ヶ月は経つ。その前からここで働いている旧型の彼女が廃棄される日は、そう遠くないだろう。そんな折に、意外にも彼女は僕に夜の散歩を持ちかけたのだった。

僕らがそれを繰り返すならば

満月に照らされて昼のように明るい田舎道を歩きながら、僕も彼女も無言だった。誘ってきたのは彼女であるから、僕は彼女が口火を切るのを今か今かと待っていた。僕の前を一定の速度で前進する彼女は、正面からの月光を全身で浴びているために、こちらからは影のようにしか見えない。

「それで、どこまで行くつもりですか」

屋敷から丁度一キロメートルを歩ききった彼女に向かつて僕が言葉を投げかけると、彼女はついに歩みを止めて振り返った。生温い夏の夜風が頬を撫でる。彼女は相変わらず影に覆われているため、その表情を読み取ることは不可能だった。

（顔が見えたとしても、無意味ではあるけれど）

旧型だから当然と言ってしまうえばそれまでだが、彼女が僕に比べると恐ろしく低い性能が低いことに僕は気付いていた。例を挙げればきりが無いが、例えば僕が感情というものを表現できるように作られているのに対し、彼女は感情があってもそれを表現することができないようなのだ。

「私が初めてあの屋敷に来たとき」

ぼつりと、風にかき消されてしまいそうな微かな声で、彼女は唐突に言葉を紡いだ。

「ある使用人口ロボットが、あの屋敷で働いていたのです」彼女の長い黒髪が風に揺れる。

「彼には会話能力がありませんでした。とにかく古い型でしたから。私があの屋敷に仕えることになった日、彼はキッチンの隅に佇んでいました。

いえ、正確に言うとは置かれていたのです。彼は自分の意思というものを持ち合わせておらず、ご主人様の指示無しでは何もできない存在でした。例

えばご主人様の外出中に雨が降り出してしまえば、洗濯物は間違わず濡れになってしまふ」

彼女は一旦言葉を切った。僕は彼女の影を見つめながら、彼女の意図するところを推察していた。

「そんな彼を見ながら、私はある種の優越、あるいは侮蔑の念を抱いていました。どこをとっても、私が彼に対して劣っている点は無かったのですから。彼が廃棄されたことを知って、嘲めることはあっても哀れむことはありませんでした。でも」

僕は無言で彼女の前に立ち尽くしていた。彼女の発する言葉は、刃となって僕の体に突き刺さる。次に続く言葉だって、きっと僕は容易に推測できるのだ。しかし、全身がそれを拒んでいた。

「あなたが現れて、私は悟ったのです。今の私はあの時の彼なのだと。性能で劣るのが明らかな私は、彼と同じ運命を辿るのだと。自分を超える存在が、自分の地位を脅かす日というものを、あなたは考えたことはありませんか？」

気が付くと彼女は僕の目の前に立っていた。この至近距離でも顔を認識できないのは、逆光のせいだけなのか。それとも、あるいは。

「私の後継者であるあなたにお願いします。どうか、私のような醜い思考には侵されなないで」僕は何も言えなかった。言いたくなかった。

数日後、朝早くに廃棄場からくすねてきた機械の部品を眺めながら、僕はあの夜のことを反芻していた。永遠に続く新旧交代の連鎖の一部でしかない僕は、旧型の彼女を蹴落とした傲慢を忘れ、いつ来るとも知れない新たな高性能ロボットの影に怯え続けるのだ。それでも、その中でできるせめてもの行いは何かと考えた僕は、あるひとつの結論に達していた。目の前の部品を見つめて、優しく声をかける。

「今まで、お疲れ様でした」

うそつきママ

六月十一日(日)

はれ

「ママはゆかちゃんのパパとなつみちゃんのパパとお食事に行ってくるからパパはどこかにつれて行ってもいいな」とい

と言ってママは出かけていきました。

ママが出かけた後、わたしはパパと弟といっしょに近くの公園へつれて行ってもらいました。すべりだいやブランコで遊んでとても楽しかったです。お昼はファミリーレストランでハンバーグを食べました。

おうちに帰るとつかれたのでおひるねをしました。

おひるねからおきてしばらくするとママが帰ってきました。

帰ってきたママを見るとすぐにこう思いました。

「ママはお食事なんか行っていない」「ママのうそつき」

なぜならママのむねが朝よりも大きくなっていたからです。

「まい、ママ、朝とくらべてどこか変わったでしょ」と言いました。

するとわたしはこうこたえました。

「ママのうそつき」

齒車と不器用

齒車 齒車

心の齒車

齒車 齒車

私の齒車

無数の齒車

その中に

赤い齒車

君への想い

齒車 齒車

赤い齒車

齒車 齒車

歪んだ齒車

たった一つが

歪んだために

私の心は
軋み始める

齒車 齒車

軋む齒車

齒車 齒車

廻らぬ齒車

君は歪んだ齒車を

強く

優しく

砕いてくれた

齒車 齒車

砕けた破片

齒車 齒車

君との思い出

戻らぬ過去を

胸にしまつて

未来へ向かつて

廻り始める

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	時代のアルゴリズム	0 pt	11 位	1 sp
		いきなり難問表紙です。 新と旧を全く使わずに、発散から収束へ、いつかはゼロへ、と時間軸上の〈動き〉をあらわそうと企んだのかなと読んだのですが、さて？ 作者さんの解説をお待ちします。 特別賞：国語を勉強しま賞（文法とか意味わからない。） イチオシフレーズ：「微小な単純の虚像へ」		
A02	時代	0 pt	11 位	1 sp
		しっかり調べてかっちりまとめた、まさに王道の正統派。 昔の人が思い描いた「今」と実際の今との相違という読者の関心を惹きやすい切り口からさっくり入って、飛行機にテレビ、そして旧きモノのたいせつさというメイン論点へと論旨展開、着地は格言でぴしり。ぱちぱちぱち。 この意欲作にポイントが入らないって、うーん、正統派運動推進中なのに残念。 特別賞：班長をたたえま賞（班長おすすめ今まででありがとうございます。）		
A03	みんなのヒーロー アンパンマン	9 pt	5 位	3 sp
		かろやかにみんなのヒーロー登場！かと思いきや。 どうしてどうして、思いっきり皮肉の効いたアンチ・ヒーローものでした。 これが僕のエブリデイ♪当のヒーローさんが愛と勇気を信じ切り、遠慮もためらいも悲しみもなく、カビた顔を捨ててゆくことで、痛烈な批評を軽快に奏でることに成功しています。ナイス切れ味！ 特別賞：カビカビフェイス賞（ヒーローの負のオーラを感じた……。）大リーグ投手も顔負けで賞（バタコさんのナイスピッチング！）なぜで賞（なんで256なのかギモンに思ったbyほしんこ（仮）） イチオシフレーズ：「これが僕のエブリデイ。」×2		
A04	無題（自分の中にふたりの自分）	16 pt	3 位	0 sp
		自分を精神分析してみたら、こんなふうに2つの要素が析出できました、と。 矛盾しあうようだけれど、じつはどちらもたいせつ。反目から危機を経て和解と融合に至るまでを、レイアウトにシンクロさせてくっきり描き出して、読者も一緒に成長できそうな。 抽象度が高くて地味なつくりなのに、しっかり読み込んでもらえてブロンズ・メダル&イチオシフレーズ大賞タイでした。おめでとう!! イチオシフレーズ：「僕には彼が必要だったんだ」×3		

A05	旧傷	5 pt	6 位	0 sp
		曖昧で鈍くてゆるい。だけれども、深い。それはもう自らの体の一部分と化してしまった、決して癒える日の来ない傷。 あからさまにシャウトするのではない、祈りのような呟きのような口調がよく似合う回顧でした。		
A06	新旧ダイナミズム	1 pt	10 位	0 sp
		もひとつ正統派入ります。 身近な話題から入って姨捨山経由で高齢者を生かす社会へと。単なる「お年寄りに敬意を」ではなく、「もったいない」という経済学視点を入れたところが論旨のキーでしたね。 ラスト、自分に戻しての決意表明も読者の共感を誘いやすい、いい終わり方です。 この意欲作が1ポイントって、うーん、正統派運動推進中なのに（以下略）。		
A07	無題（癖毛）	18 pt	2 位	1 sp
		最初の一行、恨みこもって、つかみ十分。 これはうまい！漱石さんが乗り移ったかのようなぼやきが、いかにも彼らしくって、あのマジメ顔まで浮かんでできてしまって、ツボでした。ラストの無機質な音声でのオチもあざやかです。 予想通りのヒットでしたね。おめでとうシルバー・メダル!! 特別賞：この上ない地位をあげま賞（3位とせりあっていた） イチオシフレーズ：「あの癖毛の男」×2		
A08	「旧」対「新」	2 pt	8 位	1 sp
		こわいよー、ぬいぐるみのクマが襲ってくるう。 夢だろうなあと予想しつつも、そのファンタジックな光景がありありと見えてきて、迫力満点。そのあと「ごめん」の気持ちさが、やさしく朝日に照らされて。内省的なまとめがいいですね。 特別賞：クマの勝ちで賞（クマがなんかこわかったからつい……） イチオシフレーズ：「必殺・マシンガンチョップ！」		
A09	旧内閣から新内閣へひとこと	11 pt	4 位	5 sp
		出ました時事ネタ。 うまいこと言った！ オヤジギャグなところも、いかにも政界向け。最多特別賞受賞です。おめでとう！ 特別賞：ニュース賞（時事ネタで国民のいたいコトを代弁してと思ったから）東工大で賞（菅さんだから。）新首賞（相）（このコラムが際立っていた!!）参院選でさようならで賞（カンさん頑張って）危地賞（基よりも 危 によっててそれがいい。） イチオシフレーズ：「基/危地はまかせた」		
		22 pt	1 位	0 sp
		ロボットにおける世代交代。そのなかで彼らは何を思うのだろうか。 緻密に組み上げたストーリーにしっかりと魅了されます。		

A10	僕らがそれを繰り返すならば	性能、というモノサシが厳然としてあるぶん、人間の新旧交代よりも、より明白で残酷な設定のなかで、それでも彼らは古い部品をお守り替わりに「生きて」ゆく。 長編映画にもできそうなナイス・コンセプト、そしてそれをこの小さなスペースでしっかり形にした手腕にブラボーです。本人も周囲も納得のゴールド・メダルではないでしょうか。おめでとう!! 今後もファンタジック・ストーリーで楽しませてください。 イチオシフレーズ：「今までお疲れ様でした」
A11	うそつきママ	2 pt 8 位 2 sp ん？で、ママどこ行ったん？エステかなあいや整形か？とTAさんたち。 さて、どうでしょう？謎が印象を深めてかイチオシフレーズ大賞タイでしたが、謎を解いてくださる作者さんのお越しをお待ちします。 特別賞：なんで賞手術で賞（結局手術したんですか？しましたよね？） イチオシフレーズ：「ママのうそつき」「ママのむねが朝よりも大きくなっていたからです。」×2
A12	歯車と不器用	4 pt 7 位 0 sp カチカチと無機的に回転し続ける心のメカニズムが浮かび上がり、そこに赤という鮮烈な「規格外」が差し込まれ、そしてメカニズムが事態を「処理」するに至るまで。 一連の動きが、映像のようにくっきり見えました。そして、表面上はなにごともなかったかのように、またカチカチと。 いつまでも余韻を残す今週の読み納めでした。 イチオシフレーズ：「たった一つが歪んだために私の心は軋み始める」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	無題（創れ）	1 pt 温故知新のさらに上を行ってやる！という気概が、命令形として浮き出してくる「創れ」にずしりとこもった、今週の表紙でした。	10 位	0 sp
B02	昔と、今と、これからの私	5 pt おとなになる、と乱暴にくくってしまいがちなもののなかみを、ていねいにトレースしてみたらこんな感じでしょうか。 全否定でもない。全肯定でもない。醜さに慣れつつ、見えるものを認めつつ、進んでゆくしかない。 どちらつかずの不安定さが率直に語られていて、好感を誘います	8 位	0 sp
B03	もう無い旧校舎	20 pt 夏休みを越えて新しくなる、という学校の節目に合わせた設定が、旧から新へと突然に変わったという印象を支えて、いい狙い。 さくさくと過去形トークでつないできて、ラストの「決めた」という決意表明がピリオド的にしっかり効いています。	2 位	1 sp

		ちょっと高校時代がなつかしくなる。そんなフロアの思 いも味方にシルバー・メダルまで駆け上がりました、お めでとう!! 特別賞：さようならボロ校舎賞（もう入れ替えだから ね）
B04	科学と錬金術	9 pt 3 位 0 sp 舞台上にスーツと黒装束、輝く電球とあやしげな鍋の液 体。そんな彼らに会話をさせてみよう。 物語の力を借りて大きなテーマに挑もうというコンセプ トが、一幕の劇としてきれいな形になりました。グッ ジョブ。めざせニュートン。 科学の進歩についてのフロアの共感を誘って、ブロン ズ・メダル・タイでしたね、おめでとう！
B05	無題（複数回答 可）	0 pt 11 位 0 sp 「複数回答可」がミソですね。 シンプルに攻めたのですが、もう少し尾ひれを付けた かったか。 で、回答予想は？ やっぱり新しいもののほうが優勢で しょうか。
B06	生まれ変わり	9 pt 3 位 0 sp 細胞レベルで考えたら、まさにその通りで、しっかりロ ジカル説得的です。 「よく近づいて見てみたまえ。」って電子顕微鏡持って こいってことでしょうか？ そんなおおまじめトークが笑 えます。 これまた理系マインドを引きつけて、ブロンズ・メダ ル・タイでした、おめでとう！
B07	新	6 pt 7 位 0 sp 漢字一文字だけを主人公にして、そのマニュアルを提 示。 まさに新しい狙いでした。「歴史あるものに使うと信頼 がなくなる」なんて、光る洞察があちこちに散りばめら れているグッジョブ。 イチオシフレーズ：「何となく性能がいいような気にさ せます。」「消費期限（じだいおくれ）には十分お気を 付けください」× 3
B08	真幹線	0 pt 11 位 9 sp ん？ 私は誰でしょうが難問。 タイムマシンさんと駕籠？？ 上と下をつなげて読むギ ミックらしいのですが、それが分かったところで謎は謎 のままです。 ポイントゼロ、なのにイチオシフレーズが2つに特別賞 が9つも！ とても不思議な現象が起きました。正解教え ての大合唱に答えてくださいまし、作者さん。 特別賞：技巧賞（こっててよかった）私は誰で賞× 2 （意味がわからないから。）よくわかんないで賞（よく わからなかったの。）よく分からないで賞（なにか技 巧がこらされているのかもしれませんが、分かりません でした。。。）ごめんなさいわかりません賞（なぞが解 けなかったから。教えてください）ヒントを増やしま賞 （ぶっちゃけイミフ）説明しま賞（イミフ）激ムズ賞 （誰もわからなかった！） イチオシフレーズ：「昔にタイ」「「…さて、私は誰 でしょう」」
		7 pt 6 位 0 sp タイトルにもなっているラスト一行が自分向けメッセー

B09	納得するまで	ジとしてポジティブ。 凹んだときには、誰でもこんなメッセージを自分のなかでリピートしているよね。そんな親近感ある仕上がりでした。
B10	エコをするときには	2 pt 9 位 2 sp 聖書をベースにしたことで、教祖さまのお言葉のような重々しい物言いがずしりと響いてきます。 人の前でエコをしないように、ですか。 ひょっとして世を挙げてのエコ礼賛の風潮へのアンチ・メッセージでもあったのでしょうか。 特別賞：聖賞（引用元が聖書らしい。） キリストで賞（聖書は偉大だから） イチオシフレース：「はっきり言っておく。」 「彼らは既に報いを受けている」
B11	政治ロボット新旧交代か	9 pt 3 位 1 sp 時節柄、首相交代ネタは山ほど来ましたが、ここまでネタをはりめぐらせた努力というか酔狂というかヒマジンぶりにブラボー。 しっかりおもしろがってもらえてネタ師としては満足でしょう。ブロンズ・メダル・タイと今週のイチオシフレース大賞ゲットです。おめでとう!! 特別賞：オタクで賞（MSあたりが） イチオシフレース：「ロボ治国家」「23239696」「うちが作ったる」「MS（モビルスーツではない）」
B12	無題（1日が終われば）	22 pt 1 位 2 sp ふっ、やるなおぬし。旧を因数分解してみせるとはっ！ 余人の追随を許さない発想の今週の読み納めが、なんとなんと大ヒットで首位です。おめでとうゴールド・メダル!! Bの裏表紙首位は先週に引き続いての現象です。ここ、信長粹って呼びたいような。 特別賞：ミルフィーユ賞（「新」と「旧」が重ね合わされているから） 金賞（圧倒的支配力を感じた） イチオシフレース：B-12すべて